

那覇の弁之御嶽 国史跡

文化審 答申 北大東の燐鉞山文化景観

国の文化審議会（佐藤信会長）は15日、那覇市の「弁之御嶽」を国の史跡に、北大東村の「北大東島の燐鉞山由来の文化的景観」を国内初の重要な文化的景観に選定するよう林芳正文部科学相に答申した。官報に告示され、近く正式に指定される。（31面に関連）

答申ではそのほか、追加指定2件が盛り込まれた。国名勝で2地域3カ所からなる「アマミクヌムイ（アマミクの杜）」は、新たに南城市の「斎場嶽（斎場御嶽）」、浦添市の「るぞろぞのいしぐすく・金ぐすく（伊祖グスク）」、「弁之御嶽」の3カ所を追加し、併せて名称を「アマミクヌムイ」に変更する。国史跡の「斎場御嶽」は、対象範囲を拡大。弁之御嶽と斎場御

嶽は、史跡と名勝の重複指定となる。弁之御嶽は琉球王国時代、国王の参拝が行われた拝所の一つ。首里城跡の東約1キロの丘陵にある。大嶽と小嶽からなり、弁ヶ嶽ともいう。琉球の祭祀の在り方と歴史の変遷を理解する上で重要と評価された。大正時代から戦後直後にかけて燐鉞石採掘が盛んだった北大東島燐鉞山遺跡は現在も採掘場、トラック軌道などの施設が国内で唯一残り、当時の生活関連施設は住宅や民宿に使われている。燐鉞採掘と産業変遷を知る上で重要とされた。



史跡指定を答申された「弁之御嶽」＝那覇市首里鳥堀町（市文化財課提供）



重要文化的景観選定を答申された「北大東島の燐鉞山由来の文化的景観」＝北大東村（村教育委員会提供）

アマミクヌムイは、琉球の開闢にまつわる神アマミクに関する御嶽で、琉球固有の地形や植生からなる風景地。斎場御嶽は、御門口への参道を含む部分などが追加指定される。

文化財活用へ意欲

那覇 北大東

国史跡や重要な文化的景観の指定に向けた答申を地域の関係者たちは歓迎し、知名度アップを期待した。

(1面参照)

那覇市の城間幹子市長は古くから伝わる「弁ヶ御嶽」

という名称での指定も含めて「聖地としての歴史性を高く評価してもらった。今後文化財の保護・保存にしっかりと努めていく」とコメントした。弁ヶ岳公園の清掃を担う

首里烏堀町自治会の當間正之会長は「烏堀町の誇れる文化財。名譽なことだ」と歓迎。「さらに明るい公園にして、人通りを多くしていきたい」と意気込んだ。県内初の重要な文化的景観

に選ばれた北大東村の宮城光正村長は「島の歴史を語る建造物をしっかりと再生・保存し、島づくりに生かしたい」と決意を語った。村は2015年度に景観保存のための委員会を立ち上げ、遺跡周辺の清掃やウォーキング大会を実施するなど啓発に取り組んできた。燐鉱山で働いた経験が

ある元教育長の沖山昇さん(87)は「島外の人に島の歴史を分かりやすく伝える場所に来てきたら」と期待した。

「北大東の燐鉱山」重文景観

文化審議会答申「弁之御嶽」は国史跡



県内初の重要文化的景観に選定された「北大東島の燐鉱山由来の文化的景観」。手前の施設跡、現在の民家などを含む一帯が指定地となる（北大東村教育委員会提供）

国の文化審議会（佐藤信会長）は15日、那覇市の「弁之御嶽」を史跡に指定し、北大東村の「北大東島の燐鉱山由来の文化的景観」を重要文化的景観に選定することを文部科学大臣に答申した。重要文化的景観は県内初で、国史跡は41件目。（26面に関連）

史跡と名勝の各1件で追加指定もあった。すでに史跡指定されている斎場御嶽（南城市）は、御嶽に通じる古い参道の石畳や参詣前に身を清めたウローカー（井戸）、日本軍の砲台などを含む隣接地域を史跡に追加指定した。

琉球開闢神話にまつわる各地の御嶽として名勝指定されている「アマミクヌムイ（アマミクの杜）今鬼神ノカナヒヤフ（テンチンシア

マチジ）及びこはの御嶽（クバの御嶽）久高コハウ森（久高のフボー御嶽）に、「斎場御嶽（斎場御嶽）」、「多そるぞのいしぐすく・金ぐすく（伊祖グスク）（浦添市）、今回史跡に指定された「弁之御嶽」の3カ所が追加指定された。またこれら全体を指す指定名称を「アマミクヌムイ」と変更した。

「弁之御嶽」は首里城の東にある弁ヶ嶽と呼ばれる標高166mの丘。琉球王国の国家祭祀の聖域と位置付けられ、拝所や石門が作られた。「琉球の祭祀のあり方や歴史の変遷を理解する上で重要」とされた。

北大東島には、大正時代から終戦直後にかけて島の産業を支えたリン鉱石採掘に関わる生産施設が残っている。一部は住宅や民宿と

して現在も利用され、独特の景観を呈する。「リン鉱石採掘の歴史やその後の産業変遷を知る上で重要」と評価された。

国史跡、重文景観指定

国の文化審議会によって、「弁之御嶽」（那覇市）の史跡指定、「北大東島の燐鉱山由来の文化的景観」（北大東村）の重要な文化的景観への選定、斎場御嶽（南城市）に通じる古い参道の石畳や参詣前に身を清めたウローカー（井戸）などを含む隣接地域の史跡への追加指定が答申された。地元からは喜びや期待の声が上がった。

（26面に関連）

「聖地の歴史評価」

弁之御嶽は、那覇市首里の標高165・6mの丘陵にある。琉球王国時代に国家祭祀の聖域として位置づけられ、国王自らの参拝が

行われた拜所の一つ。「弁ヶ嶽」の呼称で広く知られ、今でも全県から多くの人が拜みに訪れる。

「待ち望んでいた」

【南城】南城市の「ウローカー及び御門口に至る参道」を国の史跡として追加登録するよう答申されたことに、関係者は「待ち望んでいた」「斎場御嶽全体の保全につながる」と喜んだ。

ウローカー（ウロイ泉）は琉球王国時代、斎場御嶽に入る前に身を清める場所だった。斎場御嶽は1972年5月に国の史跡文化財に指定されたが、ウローカーは含まれていなかった。

瑞慶覧長敏市長は「素晴らしいことだ。南城市の魅力がまた一つ認められた。観光だけではなく、子どもたちの歴史教育の材料とし

御嶽は北側の大嶽と南側の小嶽に分かれており、1519年に石門を建て、1543年に参道を石敷道に改修した。小嶽の御願所そばには斎場御嶽の遥拝所がある。

鳥堀町自治会が定期的に、草刈り活動などを行っている。同自治会の當間正之会長は「弁ヶ嶽は鳥堀の誇り。（国史跡の指定は）めでたいこと」と喜ぶ。城間幹子那覇市長も指定を歓迎し「聖地としての歴史性を評価して頂いた」と話した。

でも活用していきたい」と喜びを語った。市教育委員会は「（史跡登録を）待ち望んでいた。先に世

界遺産に登録された斎場御嶽と合わせて、御嶽全体の保全により力を入れていきたい」と話した。

北大東村港区（重要文化的景観）

「県内初うれしい」

【北大東】独特の景観が残る北大東村港区が県内初の重要文化的景観に選定されたことを受け、村内から喜びの声が上がった。

宮城光正村長は「先人たちが大変な苦難を乗り越えて島を切り開いた。港区は島の歴史を語る上で重要な地域で、県内初の選定をうれしく思う。村民も誇りに思っている」と喜ぶ。今後については「価値を再認識し、後世に歴史を正しく伝えるエリアとして保全・再生し、観光振興にも活用したい」と語った。

村教育委員会では選定を機に、子どもたちが島に誇りを持つよう、島の歴史をしっかりと伝えていく考えだ。

15歳から4年ほど燐鉱山で働いた経験があり、現在は燐鉱山の案内をする元教育長の沖山昇さん（87）は「他にはない、日本で大事なものだ」とあらためて思った。これからも燐鉱山で島の素晴らしさをPRしていきたい」と喜びを語った。



那覇 弁之御嶽（国史跡）

那覇市の「弁之御嶽」。写真は、東西に走る道路北側にある大嶽で、森全体が指定地域となる（那覇市提供）



南城 ウローカー及び参道御門口に至る（国史跡）

参道沿いであり、参詣時の清めに使われた（南城市教育委員会提供）